

報道関係者各位
プレスリリース

2024年3月28日
一般社団法人タラ オセアン ジャパン

藻場をより深く理解する 「Tara JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト」 2年目の挑戦がスタート

海洋研究と海洋保全に取り組む一般社団法人タラ オセアン ジャパン（所在地：東京都、代表理事：エチエンヌ・ブルゴワ、以下「タラ オセアン ジャパン」）は、「Tara JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト」の2年目の活動として2025年4月から7月にかけて、全国7拠点で調査・研究および啓発活動を行います。



2024年の調査の様子

「Tara JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト」は海藻や海草などのブルーカーボン生態系を調査し、その重要性を広く発信するプロジェクトです。約4年をかけて日本全国13か所以上で調査・研究を行う計画です。2024年に始動した1年目は、海藻を対象にした調査を、九州大学 天草臨海実験所、北海道大学 北方圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所、島根大学 隠岐臨海実験所の3拠点、海草を対象にした調査を広島大学 竹原ステーションで実施しました。

2年目となる2025年は、調査拠点を7か所に増やし、以下のエリアで海藻藻場の調査を行います。

2025年4月： 筑波大学 下田臨海実験センター

2025年5月： 長崎大学 環東シナ海環境資源研究センター
高知大学 総合研究センター海洋生物研究教育施設

2025年6月： 香川大学 瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション
新潟大学 佐渡自然共生科学センター臨海実験所

2025年7月： 北海道大学 北方圏フィールド科学センター忍路臨海実験所
東北大学 大学院農学研究科附属女川フィールドセンター



■ブルーカーボン生態系の重要性と本プロジェクトの意義

ブルーカーボン生態系は、「生物のゆりかご」とも称されるほど多様な生物を育む重要な環境です。同時に、炭素を隔離する機能を持ち、地球温暖化の抑制やブルーカーボンクレジットの観点からも注目されています。しかし、どの種類の海藻・海草がどのように炭素を隔離するのか、そのメカニズムは未解明の部分が多く残されています。

本プロジェクトでは、以下の調査などを通じて、日本各地の沿岸域で大規模なデータを収集します。

- 海藻が藻場から沖合にどの程度影響を及ぼすのかを調べる採水調査
- 光合成の効果を測定
- 堆積物中に含まれる海藻の量を調べる採泥調査
- ドローンを活用した藻場の範囲特定

■地域と連携した啓発活動も実施

調査拠点では、ブルーカーボン生態系の重要性やタラ オセアンの活動を伝えるため、一般の方を対象とした啓発活動も行います。

- セミナー
- ビーチクリーンなどの屋外活動
- 科学実験などの体験プログラム

2024年の活動では、子ども達を含む、多くの方々にご参加いただき、科学者との対話の機会も好評を博しました。2025年も各地でイベントを開催予定です。詳細はタラ オセアン ジャパンの公式ウェブサイトやSNSで発信しますので、ぜひご注目ください！



2024年の啓発イベントの様子

■タラ オセアン ジャパン

2003年にフランスのアパレルブランド「アニエスベー」創設者のアニエス・トゥルブレとその息子、エチエンヌ・ブルゴワが立ち上げた海に特化した公益財団法人、タラ オセアン財団の日本支部。タラ オセアンでは、世界中の海を「科学探査船 タラ号」で科学者とアーティストと航海し、地球温暖化やマイクロプラスチックをはじめとする、さまざまな環境的脅威が海洋に与える影響の研究を進めている。

タラ オセアン ジャパンでは、このタラ オセアン財団の理念と実践を踏襲し、タラ号の活動を紹介するとともに、日本独自のプロジェクトを推進。

科学×アート×教育の力で、見えない海の世界を理解し可視化し、海を守ることの重要性を発信している。

タラ オセアン ジャパンの活動: <https://linktr.ee/tarajapan/>

Tara JAMBIO ブルーカーボンプロジェクト:

<https://jp.fondationtaraocean.org/expedition/tara-jambio-bluecarbon/>

■JAMBIO(マリンバイオ共同推進機構)

北海道から沖縄までを網羅する、全国の臨海実験所、水産実験所の研究連携推進組織。2020年から2023年にはタラ オセアン ジャパンがJAMBIOと協力し「Tara JAMBIO マイクロプラスチック共同調査」を実施。日本沿岸海域のマイクロプラスチック汚染の調査と啓発活動を行った。

<https://jambio.jp/>